

2005年度

Block 6 テュートリアル課題

課題番号 6

私の願い

麻酔科学 前 知子

電子で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

矢部明夫さんは54歳。会社の健診の後、精密検査を受けることを勧められました。風邪の後、咳と痰がなかなか治らないことも気になっていました。

抽出事項

- ・ 咳と痰がなかなか治らない
→ 診断仮説をたて鑑別診断を行うことができる (A-1)

シート2

肺に影が見つかった矢部さんは、外来でたくさんの検査を受け、入院治療をすすめられました。

抽出事項

- ・ 肺に影が見つかった矢部さん
- ・ 外来でたくさん検査を受けた
→ どのような情報を得たいか、どのような検査が必要か具体的に挙げる。必要に応じて供覧
胸部X線写真については、正常と患者の2枚で読影できるよう導く。

供覧 患者病歴と理学所見

正常胸部X線写真、患者胸部X線写真、心電図、血算、血液生化学、腫瘍マーカー値、胸部CT写真、気管支鏡所見、細胞診検査所見、病理組織検査所見、肺機能検査所見、動脈血ガスデータ

シート3

肺がんの手術目的で入院しましたが、精密検査の結果 転移がみつきり、治療方針が変更になることになりました。主治医からの説明を聞き、“手術できないなんて、、、自分はこれからどうなるんだろう、、、”と、一時は絶望的になっていた矢部さんですが、間近に控えた娘さんの結婚式への出席を目標に治療をがんばるようになりました。

抽出事項

- ・ 肺がん手術目的で入院
- ・ 転移がみつきり治療方針が変更
→肺がんの一般的治療について述べることができる (B-1)
- ・ 主治医からの説明
→悪性疾患の告知の問題 (A-3)
(担当医から患者さんと家族に説明をしている設定で学生にロールプレイをしてもらう。)
- ・ 主治医の説明を聞き、、、絶望的になった矢部さん
→トータルペインについて理解し説明できる (C-1)

シート4

化学療法と放射線治療を終え退院し、仕事と通院の日々が続いていました。半年くらい過ぎた頃、足の痛みと痺れを自覚するようになってきました。日に日に力も入りにくくなるようで、歩けなくなってしまうのではないかと不安で夜も良く眠れなくなってきました。

抽出事項

- ・ 退院し、仕事と通院の日々
→壮年期の罹患による、社会的、経済的影響について理解できる。
(C-2)
- ・ 足の痛みと痺れ
→がん性疼痛に対する薬物療法、神経ブロックを理解し説明できる。

(A-3)

→症状緩和法としての放射線療法、化学療法について理解できる。

(B-2)

資料：腰椎 MRI 写真

シート5

検査で多発転移が見つかり再入院の上、治療が追加されることになりました。治療や痛み止めの薬も追加され、徐々に痛みは軽くなっていきましたが足の痺れはひどくなりついに力が入らなくなりました。どうしても、家に帰りたい矢部さんのために在宅治療に向けての手続きが始まりました。

抽出事項

- ・ 多発転移が見つかり、治療が追加
 - 肺がんの一般的治療について述べることができる (B-1)
 - 症状緩和法としての放射線療法、化学療法について理解できる。
(B-2)
- ・ 治療や痛み止めの薬も追加され、徐々に痛みは軽くなっていききました
 - がん性疼痛に対する薬物療法、神経ブロックを理解し説明できる。
(A-3)
- ・ 在宅治療に向けての手続き
 - 壮年期の罹患による、社会的、経済的影響について理解できる (C-2)